

大雪山・裏旭野営指定地への
携帯トイレブース設置に向けた現地調査報告



2020年(令和2年)9月

山のトイレを考える会

大雪山・裏旭野営指定地への 携帯トイレブース設置に向けた現地調査報告

- 目的 山のトイレを考える会では、大雪山・裏旭野営指定地（以下 裏旭）への携帯トイレブース設置に向け検討するため、裏旭にテント泊して現地調査を実施した。
- 調査期間 2020年（令和2年）7月18日（土）～19日（日）
- 調査員 磯部吉克（リーダー）、手嶋真智子、田中智子、仲俣善雄
- 登山コース （1日目）旭岳ロープウェイ乗車→姿見駅→旭岳→裏旭（テント泊）
（2日目）裏旭→間宮岳→裾合平→姿見駅→旭岳ロープウェイ乗車
- テント数 28張（調査員4張含む）。宿泊者数約40人。

1. 登山者の意識調査（聞き取り調査）

裏旭テント泊者と通過者を対象に事前に調査項目を決めておき、聞き取りで実施した。

■回答者 12人（テント泊者：10人。通過者：2人）

1-1 調査結果 （ ）は通過登山者数〔再掲〕

(1) 性別 男性9人(2人) 女性3人 計12人(2人)

(2) 今回の登山は、どなたと一緒ですか？

①単 独 6人(2人) ②山友だち 2人 ③家族 3人

④山岳会等0人 ⑤その他 1人(職場の同好会)

(3) お住まいの都道府県を教えてください

①道内 10人(1人) ②道外 2人(1人)

(4) 今回、利用される登山のコースはどこですか？

①旭岳RW→旭岳→裾合平(中岳温泉)→旭岳RW 4人(1人)

②旭岳RW→旭岳→黒岳→黒岳RW 2人

③銀泉台→旭岳→黒岳→黒岳RW 1人

④旭岳RW→旭岳→忠別岳→十勝岳→白銀荘 1人

⑤旭岳RW→旭岳→御鉢平周回→裾合平→旭岳RW 1人

⑥旭岳RW→旭岳→北鎮岳→当麻岳→旭岳RW 1人

⑦黒岳RW→黒岳→旭岳→黒岳→黒岳RW 2人(1人)

(5) 今回、裏旭野営指定地を利用しますか？次の宿泊地はどこですか？

①する 10人 ②しない 2人 (次の宿泊地：1人 忠別岳避難小屋)

(6) 過去に裏旭野営指定地を利用したことがありますか？(回数)

①ない 10人(2人) ②ある2人(今回2回目)

(7) 大雪山で登山者に携帯トイレの利用をお願いしていることはご存知でしたか？

①知っている 12人(2人) ②知らなかった 0人

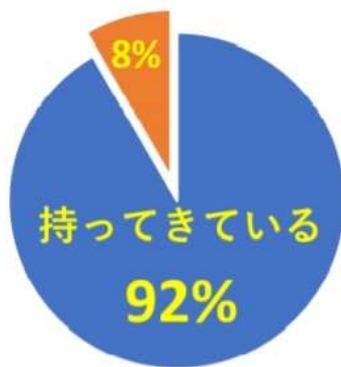
大雪山での登山者の携帯
トイレ認知度は10割！



(8) 今回の登山に、携帯トイレを持ってきましたか？

①持ってきている 11人(2人) ②持ってきていない 1人(0人)

※携帯トイレを配布した



(9) 今まで携帯トイレを使ったことがありますか？

①ある 7人(1人) ②ない 5人(1人)



(10) 裏旭野営指定地に携帯トイレを使用する小屋型ブースは必要と思いますか？

①必要と思う 11人(2人) ②必要と思わない 1人(0人)



〔理由〕女性と違って隠れる必要性を感じないので、私(男性)にはブースは不要である





山トイレマップを配布



女性のソロテント泊も目立つ



聞き取りの意識調査



山のトイレを考える会の調査員

1-2 意識調査結果の考察

- (1) 12人の内、携帯トイレを持ってきていなかったのはテント泊者1名だった。通過者2名も所持しており、全体の所持率は92%。携帯トイレは登山者の必須アイテムとなっていた。
- (2) 大雪山で携帯トイレの利用をお願いしていることは全員が知っていた。普及言やトムラウシ、美瑛富士の携帯トイレブース設置などが成果となっていると思われる。
- (3) 裏旭に携帯トイレブースが必要と感じている人は92%だった。
- (4) 携帯トイレの使用経験がない人は約40%。機会があれば使用する可能性のある人もまだ多く、裏旭への携帯トイレブースの設置は使用機会を増やすことになる。
- (5) 裏旭テン場には携帯トイレを使用したくても携帯トイレブースが無く、また周囲にも隠れる場所が無いため、皆さん困惑していた。特に女性は困惑していた。

2. 現地調査結果（裏旭テン場及び周辺環境）

- (1) 裏旭のテント場は28張と満杯状態で幕営できるスペースは僅かであった。28張のうち、雪渓の水が流れる小川の向こうに5張あった。

【別 図】参照



- (2) トイレ道はなかったが、小さな岩陰などでトイレ紙12個回収した。特に目立った「排泄物の放置」や「高山植物の踏み荒らし」はなく、想像していたより現地（周辺環境）の汚染状況は少なかった。



- (4) テント場の周辺には隠れる場所が殆ど無い。小さな岩陰は、しゃがんでも頭が見える高さだし、小川の窪地もあるが落ち着かない。特定の隠れる場所が無いので、分散して歩くのかトイレ道も出来ていなかった。
(特記) 現地調査後に分かったが、姿が隠れるためには、ずいぶん遠方（北西の沢形に入った所）まで行って用を足しているとのことだった。



- (4) 今回の調査では、日中、用を足している登山者を殆ど見なかった。一人の女性が携帯トイレを持って小川の窪地から出てきたのが唯一の目撃だった。
- (5) 標高 2074mの裏旭では、強風が吹くことが多いのか、テントの周りに防風用の石積みが多数あった。
- (6) テント場奥から登山道に合流する明瞭な踏み跡があった。両端に立ち入り禁止ロープが張ってあったが、それを越えて歩く登山者も多いと思われる。
- (7) 携帯トイレブースを設置する場合の候補地を調査員4人で話しあった結果、日帰りの人も使い易いテン場入口左側がよいとの意見だった。



登山道と裏旭野営指定地 概略図（設置検討案）





携帯トイレブース設置候補地（野営地入口）

3. その他の付随調査

- (1) 旭岳ロープウェイは、新型コロナ感染防止のため乗車人数制限などの対策をしながら運行していた。姿見駅の売店は閉鎖中だったが、トイレは使用可能であった。
- (2) 姿見駅の入山記録簿の横に「山のトイレマップ」を配備させていただいている。入山時はまだあったが下山時にはなくなっていた。入手する登山者が多いと感じた（8/17 現在、NPO法人大雪山自然学校にお願いして1,900部配備）



- (3) 旭岳石室の携帯トイレブースは便座が無く、壁に隙間があり、利用し難い状態だった（NPO大雪山自然学校で7月20日に設置したとの報告を後日得た）。
- (4) 旭岳9合目のニセ金庫岩の裏にトイレ紙やトイレ道もなかった。登山道の立ち入り禁止ロープが功を奏していると思われる。金庫岩の裏は切れ落ちているので用を足すのは難しい。
- (5) 旭岳ビジターセンターの回収ボックスには、ほぼ満杯に携帯トイレが入っていた（回収サイクルは1週間に2回）



4. 携帯トイレブース設置に向けた考察

- (1) 殆どの登山者が大雪山で携帯トイレの利用をお願いしていることを知っており、携帯トイレも所持していた。しかし、裏旭は携帯トイレブースが無く、周辺に隠れる場所もないことから困っていた。携帯トイレブースの設置が必要である。
- (2) 携帯トイレ普及宣言がより広く周知される中、トイレが設置されていない裏旭では、携帯トイレを安心して使うためにも携帯トイレブースの設置は必要である。
- (3) 裏旭は大雪山の中でも通過登山者が多く、年間約7千人以上との調査データがある。姿見駅～旭岳～裏旭～裾合平（中岳温泉）～姿見駅の周回コースが約8時間。姿見駅～旭岳～裏旭～御鉢平（北鎮岳）～黒岳石室も約7時間かかるが、この間にトイレが無い。ほぼ中間地点の裏旭に携帯トイレブースがあれば、日帰り登山者も安心して縦走できる。
(特記) 環境省で裾合平の中岳温泉に期間限定ではあるがテント型携帯トイレブースを設置した。
2019年：7月5日～7月15日
2020年：7月17日～7月30日
9月9日～9月25日（月末の予定が26日の台風で倒壊）
- (4) 2002年、北海道でトムラウシ南沼、ニペソツ前天狗及び裏旭の3箇所に携帯トイレブースを設置した。前者2つは約18年使用しているが、裏旭のブースは2003年に強風で倒壊、その後、再設置には至っていない。
同じ仕様で裏旭はなぜ倒壊したのか、砂地だからか？可能ならばその要因を探る必要がある。設置する場合には、強風でも破損しない、豪雪に耐える強度の本体で、且つ強風に耐える施工が必要と考える。
- (5) 裏旭には使い勝手がよい石が豊富にあり、三方石組み方式のブースを考えたが、ドアなしで一方向開放の形状なので、いつ人から見られるか落ち着かない。屋根が無い構造では便座が風雨にさらされる。石組構造で高さ(約1.8m以上)確保するためには素人での築造は現実的ではないとの調査員全員の意見だった。

5. 今後の課題と検討事項

- (1) 今回の調査だけでは頻度が少なく、登山者意識データの母数も少ない。
今回の現地調査内容をさらに信頼性のあるものにするため、次年度以降の現地調査(登山者の意識調査)について検討する。
- (2) 携帯トイレブースが無い裏旭で、携帯トイレを持参した登山者が「何処で、どのように排泄をしているのか」今回は突き詰めて聞けなかった。アンケート調査方式を採用し前日に配布、翌日に回収するなど、調査方法の工夫が必要である。
- (3) 裏旭の年間宿泊者数、最大宿泊者数のデータがない。トムラウシ南沼野営指定地で実証された定点カメラを使った日別のテント数把握調査が、裏旭でも実現可能か検討する。
- (4) 固定式の携帯トイレブース設置を早急を実現するには現状では課題も多い。その前段階としてテント型携帯トイレブースを試行的に設置して、利用してもらいながらの登山者意識調査を実施することも検討する。
- (5) 仮設方式のテント型携帯トイレブースを設置して運用する場合でも、恒久的な固定式携帯トイレブースを設置して運用する場合でも、設置運用開始後の維持管理

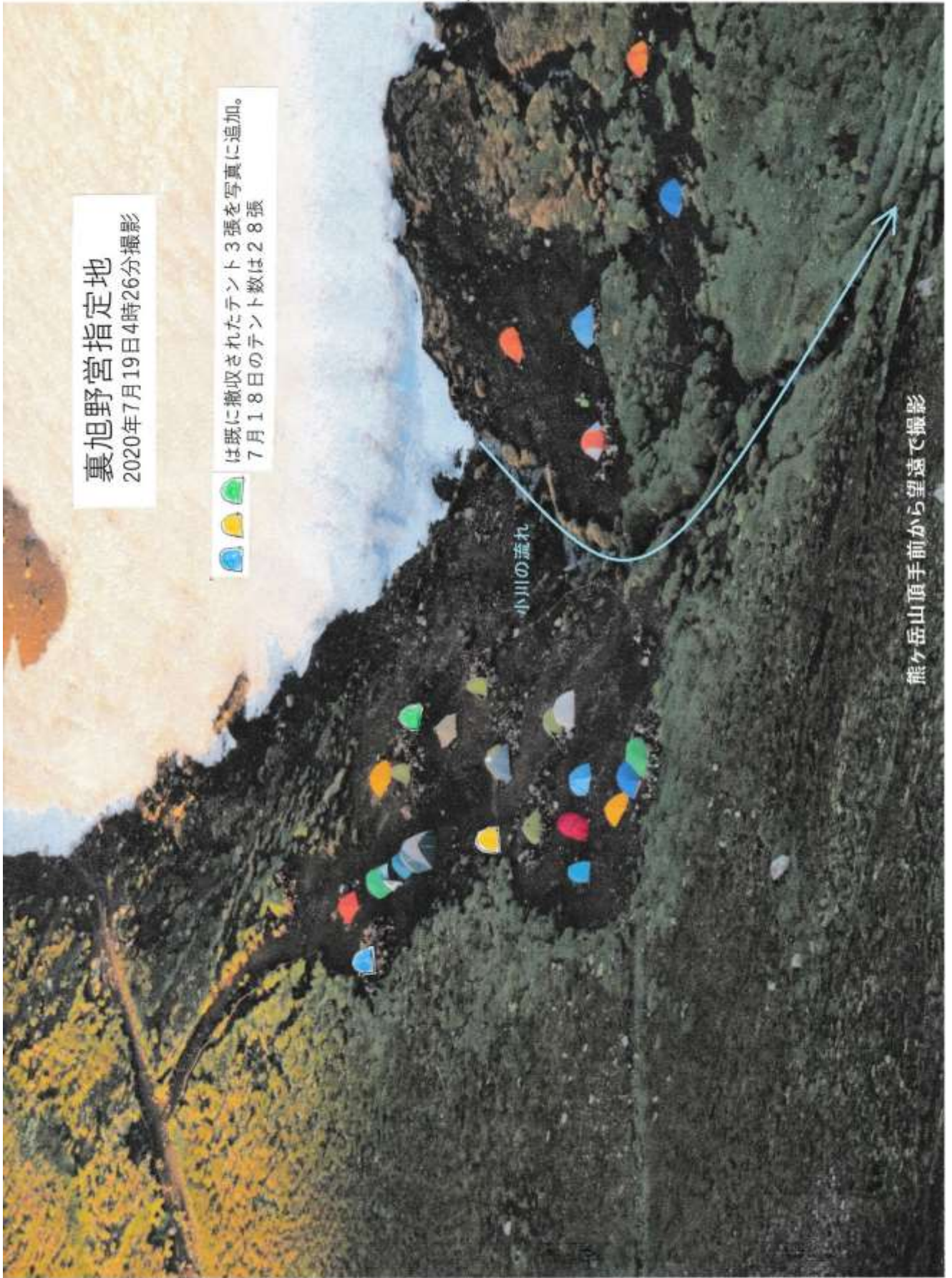
をどのように誰が担っていくかは重要な課題である。維持管理体制について検討する必要がある。

- (6) 携帯トイレブースの設置は当会だけでは実現できない。行政（環境省、北海道・上川総合振興局、林野庁、地元自治体）と利用者（北海道内の山岳団体、自然保護団体、山岳ガイド、一般登山者）など関係者の協力を得て、アイデアを出し合い、協働して課題を克服し、実現に向け取り組んでいきたい。

(以 上)



後世に残し伝えたい北海道の美しい自然



裏旭野営指定地
2020年7月19日4時26分撮影



は既に撤収されたテント3張を写真に追加。
7月18日のテント数は28張

熊ヶ岳山頂前から望遠で撮影